川崎市建築物環境配慮制度受付番号　22054

建築物名称	プレス工業株式会社川崎厚生事務棟
建築主	プレス工業株式会社　代表取締役　清水　勇生
建築物の所在地	川崎市川崎区塩浜一丁目1番1ほか8筆
設計者氏名、建築士事務所名	内山　泰 積水ハウス株式会社　東日本特建支店　一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,993.83㎡
用途	事務所、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了年月	令和6年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

Comprehensive Assessment System for Built Enviroment Efficiency

CASBEE川崎

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版　　使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

1-1 建物概要

建物名称	プレス工業株式会社 川崎厚生事務棟	階数	地上3F
建設地	川崎市川崎区塩浜1-1-1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	140 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 竣工	評価の実施日	2024年5月21日
敷地面積	47,456 ㎡	作成者	積水ハウス㈱ 東日本特建支店
建築面積	1,420 ㎡	確認日	2024年5月21日
延床面積	3,994 ㎡	確認者	積水ハウス㈱ 東日本特建支店

1-2 外観　22054

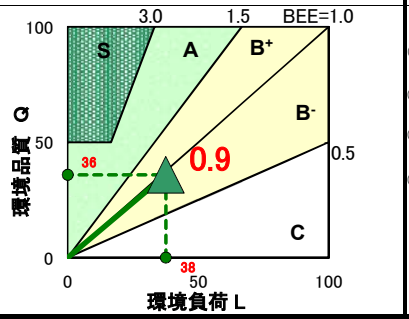
外観パース等

パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

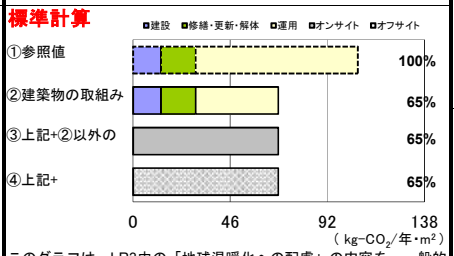
BEE =0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



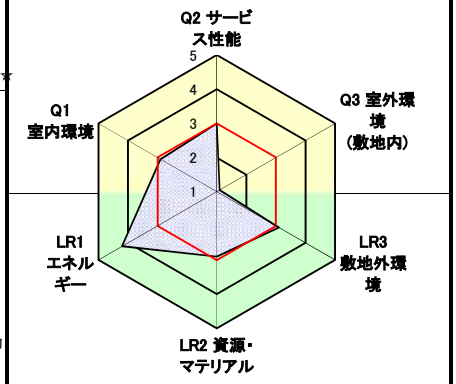
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

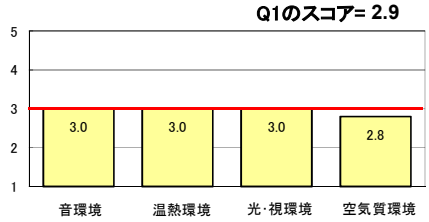
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



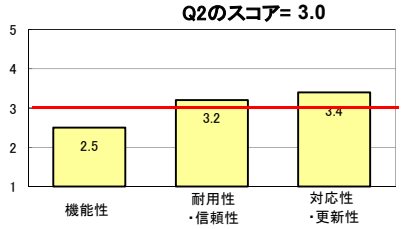
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.4

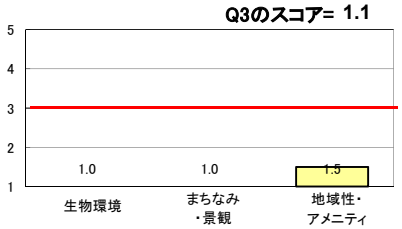
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.9



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

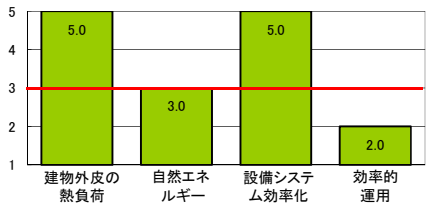


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 1.1

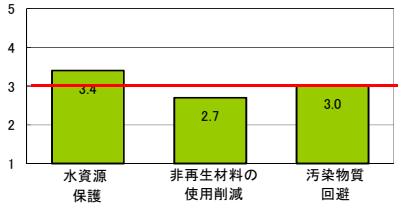


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.4

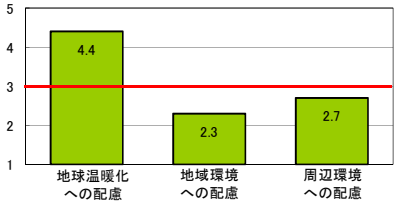
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.9



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.1



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2017(v.3.1)

プレス工業株式会社 川崎原生事務所

22054

重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績重点項目スコア合計/重点項目最高点のスコア合計	重点項目への貢献点 注)(5点満点)
緑の保全・回復(G)		**Gの平均点**	**1.6**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0/4.3	1.2
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		**Wの平均点**	**2.7**
Q-1 ■室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御		0.4/0.7	3.0
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.67 [BEI][BEIm] = 0.51	4.2/5.0	4.2
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	躯体＋軽鉄＋仕上材	2.7/4.7	2.9
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	ライフサイクルCO2排出率=65%	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		**Rの平均点**	**3.4**
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で等級3相当	0.3/0.5	3.8
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマと省水型機器(擬音装置)を採用	2.3/4.0	2.9
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		**Hの平均点**	**2.5**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.67 [BEI][BEIm] = 0.51	4.2/5.0	4.2
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績スコア合計/最高点のスコア合計	ライフサイクルCO2評価対象項目への貢献点 注)(5点満点)
建設段階			
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		4.2/5.0	4.2

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
プレスエ業株式会社　川崎厚生事務棟

欄に数値またはコメントを記入

22054

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	重点項目 G	重点項目 W	重点項目 R	重点項目 H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境							0.40		-	2.9
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		W				3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用						3.0	0.30	-	-	
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		W				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						2.8	0.25	-	-	2.8
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						2.3	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						1.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能							_	0.30	-	-	3.0
1 機能性							2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ							2.3	0.40	-	-	
1	広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性							2.3	0.30	-	-	
1	広さ感・景観						1.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース						3.0	0.33	-	-	
3	内装計画						3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理							3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数			R		住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		床：ビニル床シート、タイルカーペット、壁：壁紙、天井岩綿吸音板	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水B：ポリエチレン管、排水B：硬質塩化ビニル管、冷媒C：銅管	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔			R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性							3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3	電気設備						3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性							3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり							4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり					階高4.0m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ					0.1≦[壁長さ比率=0.13(3階)]＜0.3	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性							3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							_	0.30	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出		G	W		H		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		G					1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮							1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		G	W		H		2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性							-		-	3.4
LR1 エネルギー						_	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	BPI=0.67	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		W		H		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEI][BEIm] = 0.51	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用						2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価						2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						_	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護		W	R			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					節水コマと省水型機器（擬音装置）を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		_	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		_	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		躯体＋軽鉄＋仕上材	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		W				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						_	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		W			ライフサイクルCO2排出率=65%	4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮						2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策						3.0	0.30	-	-	